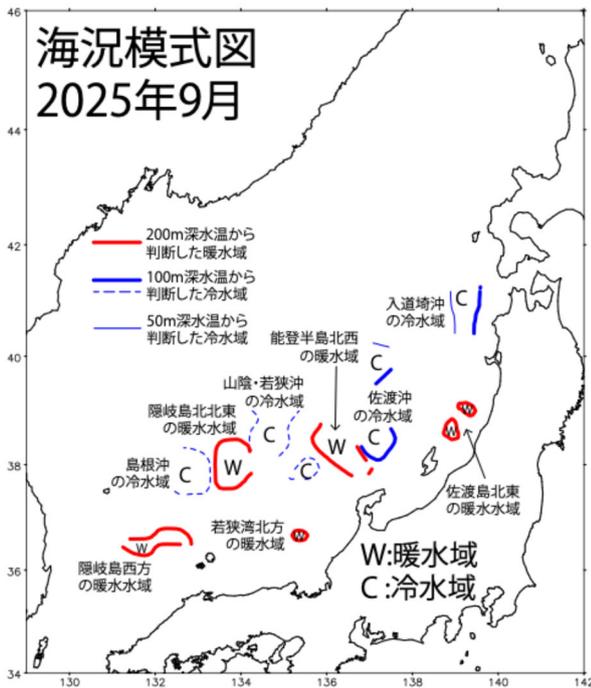




2025年度 第3回 日本海海況予報

— 別表の水産関係機関が検討し国立研究開発法人水産研究・教育機構
水産資源研究所がとりまとめた結果 —

今後の見通し(2025年10月中旬～12月)のポイント



(註)用語の定義は以下のとおり。

“はなはだ”：出現確率約22年に1回、“かなり”：出現確率約7年に1回
“やや”：出現確率約3年に1回、“平常並み”：出現確率約2年に1回

- 隠岐島西方の暖水域は弱体化し消滅する。隠岐島北北東の暖水域は弱体化し消滅する。若狭湾北方の暖水域は弱体化し消滅する。能登半島北西の暖水域は弱体化し消滅する。佐渡島北東の暖水域は西方に移動し、能登半島北方に分布する。
- 島根沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくやや接岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや大きくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、面積、接岸距離ともに平常並みで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、面積、接岸距離ともに平常並みで経過する。
- 対馬暖流域の表面水温は“かなり高め”で経過する。
- 対馬暖流域の水深50m水温は、日本海西部で“かなり高め”、北部で“やや高め”で経過する。

問い合わせ先

国立研究開発法人 水産研究・教育機構

担当：海洋環境部(新潟) 奥西、永井

電話：025-228-0451、ファックス：025-224-0950

当資料のホームページ掲載先URL

<https://www.fra.go.jp/home/kenkyushokai/press/>

2025年度 第3回 日本海海況予報

1. 今後の見通し（2025年10月中旬～12月）

- (1) 隠岐島西方の暖水域は弱体化し消滅する。隠岐島北北東の暖水域は弱体化し消滅する。若狭湾北方の暖水域は弱体化し消滅する。能登半島北西の暖水域は弱体化し消滅する。佐渡島北東の暖水域は西方に移動し、能登半島北方に分布する。
- (2) 島根沖の冷水域の張り出しは、かなり小さくやや接岸で経過する。山陰・若狭沖の冷水域の張り出しは、やや大きくやや離岸で経過する。佐渡沖の冷水域の張り出しは、面積、接岸距離ともに平年並みで経過する。入道埼沖の冷水域の張り出しは、面積、接岸距離ともに平年並みで経過する。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は“かなり高め”で経過する。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部で“かなり高め”、北部で“やや高め”で経過する。

2. 経過（(1)は2025年6月～9月、(2)～(3)は2025年6月～8月、(4)は2025年6月）

- (1) 6月に隠岐島北北東に見られた暖水域は、7月に停滞し、8月には欠測のため不明だが停滞していたと考えられ、9月にはやや南進して停滞。6月に能登半島西方に見られた暖水域は、7月には欠測のため不明だが停滞していたと考えられ、8月、9月には北東に移動し能登半島北西に分布。6月に佐渡島東方に見られた暖水域は、7月には勢力を拡大し佐渡島東方～山形西方に分布、8月には停滞、9月には勢力を弱め佐渡島北東に分布。7月に富山湾沿岸および上越沿岸で暖水域が出現、8月に消滅。8月に隠岐島西方で暖水域が出現、9月には勢力を強めながら停滞。8月に隠岐島東方で暖水域が出現し、9月には勢力を弱めながら北進し若狭湾北方に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、6月は規模が平年並みでやや離岸、7月は規模が平年並みでかなり離岸、8月は規模がかなり小さく接岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、6月は規模・接岸距離ともに平年並み、7月は規模が平年並みでやや離岸、8月は規模が平年並みでかなり離岸。佐渡島沖の冷水域は、6月～8月は規模・接岸距離ともに平年並み。入道埼沖の冷水域は、6月～7月は規模・接岸距離ともに平年並み、8月は規模がやや小さくやや離岸。
- (3) 対馬暖流域の表面水温は、6月は北海道西岸～西方で“やや高め”～“はなはだ高め”、山口北方、能登半島西方～北方、津軽海峡西方で“平年並み”、それ以外は“はなはだ低め”～“やや低め”。7月は隠岐島西方、北海道西方で“平年並み”、それ以外は“やや高め”～“はなはだ高め”。8月は“かなり高め”～“はなはだ高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、西部・北部ともに“平年並み”。

3. 現況（2025年9月）

- (1) 暖水域は、隠岐島西方、隠岐島北北東、若狭湾北方、能登半島北西、佐渡島北東に分布。
- (2) 島根沖の冷水域は、はなはだ小さく接岸距離は平年並み。山陰・若狭沖の冷水域は、規模が平年並みでかなり離岸。佐渡沖、入道埼沖の冷水域は、規模・接岸距離ともに平年並み。
- (3) 概ね “かなり高め”～“はなはだ高め”。
- (4) 対馬暖流域の水深50 m水温は、日本海西部は“かなり高め”、北部は“平年並み”。

(註) この海況予報は、国立研究開発法人水産研究・教育機構により開発され、2022年3月より運用を開始したFRA-ROMSⅡシステムを主に用いて実施し、気象庁による北陸地方の気温の3か月予報（10月～12月）も参考にした。引用符（“ ”）で囲んで表した、平年比較の水温の高低の程度は以下のとおり

- | | |
|--------------|-------------------------------|
| “はなはだ高め（低め）” | : 22年以上に1回の出現確率である2℃程度の高さ（低さ） |
| “かなり高め（低め）” | : 7年に1回の出現確率である1.5℃程度の高さ（低さ） |
| “やや高め（低め）” | : 3年に1回の出現確率である1℃程度の高さ（低さ） |
| “平年並み” | : 2年に1回の出現確率で、平年値±0.5℃程度の水温 |

参 画 機 関

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構 水産研究本部 中央水産試験場	福井県水産試験場
地方独立行政法人 青森県産業技術センター 水産総合研究所	京都府農林水産技術センター 海洋センター
秋田県水産振興センター	兵庫県立農林水産技術総合センター 但馬水産技術センター
山形県水産研究所	鳥取県水産試験場
新潟県水産海洋研究所	島根県水産技術センター
富山県農林水産総合技術センター 水産研究所	山口県水産研究センター
石川県水産総合センター	一般社団法人 漁業情報サービスセンター
	(取りまとめ機関)
	国立研究開発法人 水産研究・教育機構 水産資源研究所